

一般社団法人日本粘土学会 2020年度第2回常務委員会 議事録(案)

日 時：令和2年1月25日(土)13:00~15:00

会 場：国際文献社パブリッシングセンター会議室

出席者：常務委員(14名)：山崎淳司，河野元治，中川昌治，佐藤 努，蛭名武雄(Web)，日比野俊行，伊藤健一，小口千明，川俣 純，田村堅志，樽田誠一(代理：岡田友彦)，手束聡子，横山信吾，鈴木憲子

監事(2名)：月村勝宏，志々目正高

事務局：川島朝子

成立確認：常務委員総数15名の過半数8名

出席常務委員14名で常務委員会の開催は
成立

審議事項

1. 2020年度事業中間報告(資料1)

(1) 学術雑誌の編集と発行

日比野編集委員長(粘土科学)，蛭名編集委員長(Clay Science)からそれぞれ資料をもとに報告があった。

(2) 研究発表会・見学会等の開催

第63回粘土科学討論会(埼玉大学)について，小口実行委員長より資料をもとに開催報告があった。盛会であった旨と常務委員の方々の協力に対してのお礼があった。

第64回粘土科学討論会(信州大学)の準備状況について，樽田実行委員長の代理として岡田友彦先生より報告があった。準備はおおむね順調に進んでいるが，今回は巡検を見送ることが報告された。

(3) シンポジウム・セミナーの開催

資料をもとに，田村企画委員長より第63回粘土科学討論会でのシンポジウムの報告と第64回粘土科学討論会でのシンポジウム準備状況が報告された。

(4) 参考粘土資料

佐藤常務委員長より，資料をもとに報告があった。

(5) 広報

横山広報委員長より，資料をもとに報告があった。

(6) 渉外

川俣渉外委員より，資料をもとに報告があった。第4回アジア粘土会議の抽象トピック締め切りが2月末日に変更になっていることがアナウンスされた。支払い方法が銀行送金だけとなっているが，手数料を考えると当日払いの方が安くなる。現地払いを選択する参加者が増えると，運営上不都合なことが起こりかねないので，カード払いを検討してはどうかという意見が出され，佐藤常務委員長より小川実行委員長に確認することとなった。同国際会議の参加者を増やすために，学術振興賞に特別枠を設けてはどうかという意見があり，理事会で審議することとした。

(7) 表彰

佐藤常務委員長より，資料をもとに報告があった。

(8) 研究促進

佐藤常務委員長より，資料をもとに報告があった。

(9) 庶務

小口庶務委員より，資料をもとに他学会等との連絡・協力について報告があった。また手束庶務委員より，関連学協会との共催・協賛，および会員動向についての報告があった。

(10) 常務委員会及び理事会

佐藤常務委員長より，資料をもとに報告があった。

以上，審議の上承認された。

2. 2020年度会計中間報告(資料2)

伊藤会計委員から，資料をもとに報告があった。会員数と会費未納者数が合わないとの質問があり，会費を払って退会をした会員がいることが説明された。会誌等の在庫状況が説明され，今後は発行部数の見直しも必要かもしれないとの見解があった。また，小口第63回粘土科学討論会実行委員長より，討論会で販売するための雑誌は手元にあるので，経費等を考え事務局に戻さず直接次回の現地実行委員会に送付することが説明された。貸借対照表と財産目録の「期末」を「中間」に訂正した。

以上，審議の上承認された。

3. 賛助会員のアンケートについて(資料3)

伊藤会計委員より，賛助会員のアンケート(案)について説明があった。アンケートは会長名で出すことが提案された。アンケート項目については以下の意見が出された。

- ・意義について，学会への参加などは賛助会員の特典としてすでにあるので，それ以外のことについて質問をしたほうがよい
- ・賛助会員は学会を応援するという側面があるので，費用対効果という質問は適当ではない
- ・新サービスの中にはすでに認められている項目があり，またバーナー広告との兼ね合いもあるので，もう少し精査が必要

アンケートの実施自体は問題ないが，これらの意見を踏まえて再考することとなった。

4. 「粘土科学」投稿及び原稿執筆要領の変更について(資料4~6)

日比野編集委員長より資料をもとに説明があった。今後論文投稿については実費負担をお願いすることになった。投稿料はクレジットカードでの支払い希望があることを鑑み，8500円/ページが妥当であるが，2ページ毎に料金が発生する(裏が白紙でも負担してもらう)ので，実際には1,7000円/2ページとなる。10,000円を超えると高く感じてしまう人もいるので，理事会には8500円/ページで，裏面白紙の場合の説明を付ける提案をすることとなった。さらに，昨年書評の依頼があり，今後このような依頼原稿の可能性があるので，資料5，投稿規

定の「投稿の種類」を改訂したい。これに伴い、査読および投稿料が発生する投稿は、投稿の種類1~4であることが明示された。クレジットカードの利用は希望者とし、掲載同意書(資料6)にクレジットカード希望欄を追加することとした。

以上、審議の上承認された。

5. Clay Science 誌の将来に関するアンケートの実施について(資料7, 8)

蛭名編集委員長より、資料7をもとに編集委員会で出された意見が紹介された。これを踏まえ、アンケートを実施したいとの提案があり、内容について資料8により説明があった。また、三年程度は毎年20-30報掲載に取り組み、常務委員の皆さんにも協力をして欲しいとの要請があった。

以上、審議の上承認された。

6. 常務委員会・理事会の開催場所にいない常務委員および理事の出席方法について(資料9)

佐藤常務委員長より、理事会においてWeb出席が法的に認められる条件が資料をもとに示された。音声と画像に不具合が無いことを相互に確認することが必要であり、会議の最後にWeb出席者に対し「出席でいいですね」と常務委員長から確認し、議事録に残すことが確認された。本件は理事会での承認される必要であり、本日のWeb出席を可能とするために理事会では最初の審議事項とすることとした。

以上、審議の上承認された。

以上の決議を明確にするため、この議事録を作成し、常務委員長及び監事がこれに記名押印する。

令和2年1月30日

一般社団法人日本粘土学会 常務委員会
 常務委員長 佐藤 努 ㊟
 監事 月村 勝宏 ㊟
 監事 志々目 正高 ㊟

一般社団法人日本粘土学会 2020年度第2回理事会議事録(案)

日時：令和2年1月25日(土)13:00~15:00

会場：国際文献社パブリッシングセンター会議室

出席者：理事(18名)：山崎淳司、河野元治、中川昌治、佐藤 努、蛭名武雄(Web)、日比野俊行、太田俊一、岡田友彦、小口千明、亀島欣一、川俣 純、寒河江竹弘、鈴木憲子、高橋範行、手束聡子、中戸晃之、横山信吾、渡邊雄二郎

監事(2名)：月村勝宏、志々目正高

理事以外の常務委員(2名)：伊藤健一、田村堅志

事務局：川島朝子

欠席者：理事(10名)：伊藤弘志、大川政志、大河原文、桑原義博、笹井 亮、鈴木正哉、高木慎介、牧野知之、万福裕造、森下智貴

成立確認：理事総数28名の過半数14名、出席理事18名で理事会の開催は成立

審議に先立ち、議題の審議事項6を最初に行うことが、山崎会長より説明された。

審議事項

1. 常務委員会・理事会の開催場所にいない常務委員および理事の出席方法について(資料9)

佐藤常務委員長より、理事会においてWeb出席が法的に認められる条件が資料をもとに示された。音声と画像に不具合が無いことを相互に確認することが必要であり、会議の最後にWeb出席者に対し「出席でいいですね」と常務委員長から確認し、議事録に残すことが確認された。満場一致で承認され、本日よりWeb出席は可能となった。

2. 2020年度事業中間報告(資料1)

(1) 学術雑誌の編集と発行

日比野編集委員長(粘土科学)、蛭名編集委員長(Clay Science)からそれぞれ資料をもとに報告があった。

(2) 研究発表会・見学会等の開催

第63回粘土科学討論会(埼玉大学)について、小口実行委員長より資料をもとに開催報告があった。盛会であった旨と常務委員の方々の協力に対してのお礼があった。

第64回粘土科学討論会(信州大学)の準備状況について、樽田実行委員長の代理として岡田友彦先生より報告があった。準備はおおむね順調に進んでいるが、今回は巡検を見送ることが報告された。

(3) シンポジウム・セミナーの開催

資料をもとに、田村企画委員長より第63回粘土科学討論会でのシンポジウムの報告と第64回粘土科学討論会でのシンポジウム準備状況が報告された。

(4) 参考粘土資料

佐藤常務委員長より、資料をもとに報告があった。

(5) 広報

横山広報委員長より、資料をもとに報告があった。

(6) 渉外

川俣渉外委員より、資料をもとに報告があった。第4回アジア粘土会議のアブストラクト締め切りが2月末日に変更になっていることがアナウンスされた。支払い方法が銀行送金だけとなっているが、手数料を考えると当日払いの方が安くなる。現地払いを選択する参加者が増えると、運営上不都合なことが起こりかねないので、カード払いを検討してはどうかという意見が出され、佐藤常務委員長より小川実行委員長に確認す

ることとなった。

(7) 表彰

山崎会長より、資料をもとに報告があった。

(8) 研究促進

山崎会長より、資料をもとに報告があった。

(9) 庶務

小口庶務委員より、資料をもとに他学会等との連絡・協力について報告があった。また手束庶務委員より、関連学協会との共催・協賛、および会員動向についての報告があった。

(10) 常務委員会及び理事会

山崎会長より、資料をもとに報告があった。

以上、審議の上承認された。

3. 2020年度会計中間報告（資料2）

伊藤会計委員から、資料をもとに報告があった。会員数と会費未納者数が合わないのは、会費を払って退会をした会員がいることが説明された。会誌等の在庫状況が説明され、今後は発行部数の見直しも必要かもしれないとの見解があった。また、小口第63回粘土科学討論会実行委員長より、討論会で販売するための雑誌は手元にあるので、経費等を考え事務局に戻さず直接次回の現地実行委員会に送付することが説明された。貸借対照表と財産目録の「期末」を「中間」に、また、中間報告を令和元年12月31日までに訂正した。

以上、審議の上承認された。

4. 賛助会員のアンケートについて（資料3）

伊藤会計委員より、賛助会員のアンケート(案)について説明があった。アンケートは会長名で出し、内容については常務委員会での以下の意見を踏まえて再考することが奉公された。

- ・意義について、学会への参加などは賛助会員の特典としてすでにあるので、それ以外のことについて質問をしたほうがよい
- ・賛助会員は学会を応援するという側面があるので、費用対効果という質問は適当ではない
- ・新サービスの中にはすでに認められている項目があり、またバーナー広告との兼ね合いもあるので、もう少し精査が必要

また、質問事項から推察できるので、無記名でも無くても良いのではないかとの意見が出された。

5. 「粘土科学」投稿及び原稿執筆要領の変更について（資料4～6）

日比野編集委員長より資料をもとに説明があった。今後論文投稿については実費負担をお願いすることになった。投稿料はクレジットカードでの支払い希望があることを鑑み、8500円/ページとしたい旨が提案された。昨年書評の依頼があり、今後もこのような依頼原稿の可能性があるので、資料5、投稿規定の「投稿の種類」を改

訂したい。これに伴い、査読および投稿料が発生する投稿は、投稿の種類1～4であることが明示された。「解説」に査読は不要ではないかとの意見が出されたが、内容を精査する必要はあるので、査読は必要であるとの見解が出された。クレジットカードの利用は希望者とし、掲載同意書(資料6)にクレジットカード希望欄を追加することとした。

以上、審議の上承認された。

6. Clay Science誌の将来に関するアンケートの実施について（資料7, 8）

蛭名編集委員長より、資料7をもとに編集委員会が出された意見が紹介された。これを踏まえ、アンケートを実施したいとの提案があり、内容について資料8により説明があった。また、三年程度は毎年20-30報掲載に取り組むので、理事の皆さんにも協力をして欲しいとの要請があった。

以上、審議の上承認された。

7. 粘土科学討論会

(1) 第63回粘土科学討論会会計報告（資料10）

小口実行委員長より、広告料の納入が今月末にあること、また次期実行委員会への荷物が未発送であるので最終報告ではないが、昨年を少し超えた額が一般会計に入れられることが報告された。

(2) 第64回粘土科学討論会について

(a) 第64回粘土科学討論会実施計画（資料11）

樽田実行委員長の代理として、岡田理事から参加登録費を変更し、正会員を1,000円増しの7,000円、学生会員を1,000円下げて3,000円としたいとの提案があった。参加登録費と懇親会費については「申し合わせ」があるが、LOCの希望であれば問題ないことが確認された。これに関して前実行委員長より、「申し合わせ」が現状に合わないのを改訂してはどうかとの意見が出された。山崎会長より「申し合わせ」はあくまでも参考なので、今後もそれにとらわれることなくLOCで実施して欲しいとの見解が出された。

(b) 第64回粘土科学討論会シンポジウム実施計画（資料12）

田村企画委員長より資料をもとに説明があった。今回は「粘土科学におけるSDGs」をテーマとして、講師の選任も順調に進んでいることが報告された。

(3) 第65回粘土科学討論会について

佐藤常務委員長より、第65回粘土科学討論会は島根大学で開催の予定であること、また次回の理事会にはある程度の計画が示されることが報告された。

以上、審議の上承認された。

8. 討論会のセミナー企画について（資料13：当日配布）

田村企画委員長より、他学会の例が報告された。セミ

ナー・講習会企画の目的の1つは学会財政健全化なので、人を集められることが第一だということが確認された。企画委員会でさらに議論していくこととした。

以上、審議の上承認された。

9. その他

(1) 第4回アジア粘土会議のための学術振興賞特別枠に関する件

川俣渉外委員より、同会議に参加者を増やすため、通常2名の学術振興賞に特別枠を設けてはどうかという提案がなされた。学術振興賞はClay Science試への投稿が義務づけられてから応募者が減っているので増やしても難しいかもしれないが、若干名ということでの募集を八田学術振興積立金運営委員長に提案し、速やかに公知することが承認された。

報告事項

1. 第63回粘土科学討論会特別企画アンケート結果報告(資料14)

鈴木理事より、ダイバーシティ推進に関する企画はおおむね講評であったことが報告された。企画継続の賛否では、「積極的に続けるべき」「続けるべき」を合わせると6割以上となるが、企画そのものなのか、ダイバーシティ推進なのか曖昧な質問となってしまった。いずれにせよ今後も何らかの形で継続することが、学会として大切であることが示された。

以上の決議を明確にするため、この議事録を作成し、会長及び監事がこれに記名押印する。

令和2年1月30日

一般社団法人日本粘土学会 常務委員会

代表理事(会長)	<u>山崎 淳司</u>	㊟
代表理事(副会長)	<u>河野 元治</u>	㊟
監事	<u>月村 勝宏</u>	㊟
監事	<u>志々目 正高</u>	㊟